

男性は「語りながら聴き」、女性は「聴きながら語る」

今月はカップル間(パートナー同士)のコミュニケーション、すなわちリードとフォローとしておなじみの概念についてお話ししましょう。いつものようにまずは引用から。

「コミュニケーションにおけるたった一つの、
そして最大の問題は、
意志の疎通があったと錯覚することである」
(ジョージ・バーナード・ショー)

ダンサーとしてダンス教師として私の個人的経験を通じて言えることは、ダンスについての意志の疎通がカップル間であまりにも乏しいことに呆然としてしまうということです。

ホールドしたボディを正しい位置に保ちつつ、そして所定のコンタクト・ポイントを探りつつ、踊りながらの意志の疎通は本当に可能なのでしょうか?

どうしたら所定のコンタクト・ポイントを外さないでボディの自由を見つけることができるでしょう?

踊っているとき、時間と空間の中でのボディ・アクティビティ(積極的活動)を、所定のコンタクト・ポイント経由で相手に伝える必要がありますが、それはどのようにして伝えることができるのでしょうか?

どうしたら所定のコンタクト・ポイントを通じて、感情をパートナーに伝えることができるでしょう?

リードとフォローというものは、実際、可能なのでしょうか?
私がダンサーとしてまだ発展の途上にあったころ、上記のような問い合わせいつも念頭にありました。前述のバーナード・ショーの言葉にある錯覚が、それに続いて述べた疑問の数々を生むのであると私は思います。

コミュニケーションにおける錯覚……それはコミュニケ

ションの全くの欠如によって起きるものなのです。

「リード」という言葉を「語る」という言葉に置き換えることができるでしょうか?……?

そして「フォロー」という言葉を「能動的に聴く」という言葉に置き換えてみると?……?

社会において毎日生活していくのに、我々は語り、そして聴くという行動をします。語るのは比較的シンプルです。伝達事項を組み立て、必要な言葉を選び、それを明確に伝えればよいだけですから。

聴くのはもう少し複雑です。なぜなら聴き手の社会的環境に左右されるからです。もう一つの引用をご紹介しましょう。

「ほとんどの人は本当に聴くつもりで聴いていない。
判断し返答しなくてはと思いながら聴いているのだ」
(ルカ・バリッキ)

我々には、聴いたことは判断し理解するべきだという思い込みがあり、そのために“真に聴く”という行為にとっておくべきエネルギーを、ほとんど費やしてしまっているのです。

»次号につづく

vol.3 ルカ・バリッキ

「成功への道のり」

今回のテーマはダンスを踊る上で欠かせない
「カップル間のコミュニケーション」がテーマです。
重要なのは『真に聴く』ということ。あなたはきちんとできていますか?

翻訳/阿部千栄子 写真/杉映貴子

ルカ・バリッキ ●イタリア出身の元世界スタンダードチャンピオン。1999年~2001年全英選手権3連覇をはじめ数々のタイトルを獲得。引退後は世界を飛び回り、日本でもレッスンやワークショップを精力的に行っている。WDSFダンススポーツ・アカデミー相談役。